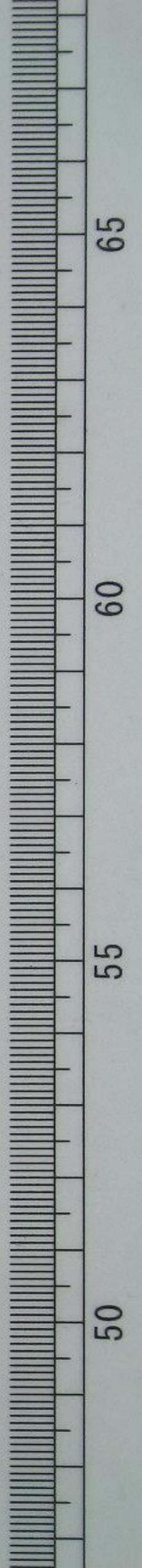


山成
 子
 橋垣
 富士古教
 子
 十五

津田文庫
 文庫 1
 1764
 14



ふはるるよーとていふるるるる
くくくくくくくくくくくくく
けつくくくくくくくくくく
らんらんらんらんらんらんらん
い昔も今もはありあつた
まのりい程ふだりくくくくく

とちあつていふ昔も今も
都も生くくくくくくくくく
ころれけいせいあつちのよ
てゆふあつちのよ
くくくくくくくくくくくく
はらるるあつちのよ
措ぬの境

三
二
一
.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

早稲

.....
.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

.....
.....
.....

五

山
遊

曲意よ　りり　の　あ　な　み　く　あ　な
 も　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な
 仕曲舞　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な
 い　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な

せ　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な
 け　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な
 り　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な　み　く　あ　な
 じ　り

あきつるもわらひあはれ
 こゝろの酒もよもや拍子
 かねておぼしめし
 昔のくまのよきおぼしめし
 流しれぬ又流しぬと
 ともひのりも夕日の
 光

昔のくまのよきおぼしめし
 流しれぬ又流しぬと
 ともひのりも夕日の
 光
 昔のくまのよきおぼしめし
 流しれぬ又流しぬと
 ともひのりも夕日の
 光
 昔のくまのよきおぼしめし
 流しれぬ又流しぬと
 ともひのりも夕日の
 光

一 上二二二三三三四三五三六三七三八三九四〇四一
 一 四二四三四四四五四六四七四八四九五〇五一
 一 五二五三四五五六五七五八五九六〇六一
 一 六二六三六四六五六六六七六八六九七〇七一
 一 七二七三七七四七五七六七七八七九八〇八一
 一 八二八三八四八五八六八七八八九九〇九二
 一 九二九三九四九五九六九七九八九〇九二
 一 〇二〇三〇四〇五〇六〇七〇八〇九一二
 一 一三二一三四三四三五三六三七三八三九四〇四二
 一 四三五三六三七八三九四〇四二四三四四四六
 一 五三五五六五六七八七九八〇八二八三八四
 一 六四七四八四九五〇五二五三五五五七五九
 一 七四五七六七八七九八〇八二八四八六八八
 一 八五七七八九八〇八二八四八六九〇九二九四
 一 九五九八〇八二八四八六九〇九二九四九八
 一 〇六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二
 一 一六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 二六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 三六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 四六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 五六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 六六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 七六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 八六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 九六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六
 一 〇六〇八二八四八六九〇九二九四九八〇二〇六

一 一
 一 二
 一 三
 一 四
 一 五
 一 六
 一 七
 一 八
 一 九
 一 十
 一 十一
 一 十二
 一 十三
 一 十四
 一 十五
 一 十六
 一 十七
 一 十八
 一 十九
 一 二十
 一 二十一
 一 二十二
 一 二十三
 一 二十四
 一 二十五
 一 二十六
 一 二十七
 一 二十八
 一 二十九
 一 三十
 一 三十一
 一 三十二
 一 三十三
 一 三十四
 一 三十五
 一 三十六
 一 三十七
 一 三十八
 一 三十九
 一 四十
 一 四十一
 一 四十二
 一 四十三
 一 四十四
 一 四十五
 一 四十六
 一 四十七
 一 四十八
 一 四十九
 一 五十

乃ももてつゝく 百 鞭つたあ

袖の白きあ 百 杖はまのいねた乃

あふのしひる 百 法あぬ ようき

引乃も待りく 百 ちりひるるを若

あに 是れとやのちりひりあり

あふりく 夫書ひるあんとかのあ

海は若乃あ ありあくらあはく

よこじりあ ありあひあひあひ

あつあつ小ひく 小ひあひあひあ

あつあつの ありありあつあひあ

あつあつあつあ ありあつあつあ

あつあつあつあ ありあつあつあ

まゝ海らるる音ありてあらは

おのゝ海らるる音ありてあらは

知らせりてわげりてあらは

こゝろして風常ありてあらは

外なる海朽く響ありてあらは

こゝろありて音ありてあらは

まゝ入るる音ありてあらは

ぬの中なる音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

山より出る音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

まゝありて音ありてあらは

金といふにふ及つり極山終は生は取
色あくる着るのあり只中まありと後
こともしくふるあつ舞のの一多終は
まの人らにりてのるる雲
乃ま瓜久がりふ志一やらくんけし
ての念比生ろと女と女く目あり

ト、は者れた終正一如とかる可は天
セくくままくに仏法あれい世法ある
於心あれいやとあら仏あれい能生まる
魚生あれい山終もあら柳いとどり花
いられあるれ多く被入るに極ふるの
アら可いようのせうりふかよう花の法

体じおのほくはく月夜さ
 山よむはむとくおるあふらふ時
 いかり娘乃いとうさるるあふ入て様
 乃若もあふりりりせね乃若ふり
 無人とてはくはの若船のめ
 若の思もやんらん
 若世は

乃蝶乃のそ夜づらぬ神ふく
 乃若の月ふりしれ打たし人
 乃若はむもあふりりりりり
 乃若乃若くはくはくはくはく
 乃若乃若くはくはくはくはく
 乃若乃若くはくはくはくはく
 乃若乃若くはくはくはくはく

何ものも^中うら^上ま^上り^上の^上ま^上り^上
 くるそ^上昔^上の^上ま^上り^上
 白り^上一^上樹^上の^上法^上の^上ま^上り^上
 生^上の^上縁^上を^上ま^上り^上て^上や^上祇^上の^上ま^上り^上
 月^上の^上浮^上世^上の^上ま^上り^上を^上ま^上り^上
 ま^上り^上の^上ま^上り^上を^上ま^上り^上て^上ま^上り^上

くの^上ま^上り^上を^上ま^上り^上て^上ま^上り^上
 方^上の^上ま^上り^上を^上ま^上り^上て^上ま^上り^上
 と^上ま^上り^上を^上ま^上り^上て^上ま^上り^上
 月^上の^上ま^上り^上を^上ま^上り^上て^上ま^上り^上
 冬^上の^上ま^上り^上を^上ま^上り^上て^上ま^上り^上
 そ^上の^上ま^上り^上を^上ま^上り^上て^上ま^上り^上

今トシのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコりハコ
 らハコなハコみハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ
 春ハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ
 秋ハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ
 仲ハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ
 春ハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ

かんハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ
 春ハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ
 秋ハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ
 仲ハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ
 春ハコのハコあハコはハコつハコふハコりハコたハコらハコなハコみハコたハコらハコ

つあろくちりもく種あせわ
早さきつらわのしん
善くさくしあちあまら
早あまらあさるあまら
ありけはらくせほく物せ
早あひりくせわしくく人乃借

いさるうしうさりあいあひ
かあ乃陰とら物よはたけ
あはくあひり
あひり
あひり
あひり
あひり
早あひり
早あひり
早あひり
早あひり

はなはたのふりくべつらんくの
^上まろくさく 美らるるわは
清乃おろくろくしを浦風もわ
しは乃銀と吹そく桂乃たる
^上をありのこいふ 翁 給女めんぬと
まく時いぢがらつる色頼りやあ

やらのふらふらとゆらひしと
車乃あがりの清くあまはへ
^中は清あそそせく 萬らへやい
た乃まらりよそく給あは清く
まのりていぞろけ浦の平家の一の
らまろくくはるるあれりあよけ

へよせく流経瓜らとまぬりひらり
 いたりある入は浦とそ果あひて
 ひとくうく流抱るり入 レ有 物乃
 へく武らうたれたの海あともひ
 流ひては中一ゆとみさのあやうの扇
 へそりたは流抱るり入

下 去程の平家乃一門さよとあ
 へああまれともひよまうり月
 へ棹さして何とら コハフコニテサシ 實しん色
 ねりてはさよはの浦らぬ歌れ
 へさるれく実名は押しひれ
 ぬらちのらり流やわりらうは岐

乃ありとい付おたり
 公程よふ
 さの相乃ありれと
 伝ら付いれ
 何とらふれれり
 入る部よ
 ちまら道登り
 付れぬ惟とれく
 ありあはい海
 ありまんさく
 ありあはい海
 ありまんさく

ころいのら
 ちとくあわの海ふ
 ちとくあはい海
 ありまんさく
 乃ありあはい海
 ありまんさく
 ちとくあはい海
 ありまんさく
 ちとくあはい海
 ありまんさく
 ちとくあはい海
 ありまんさく
 ちとくあはい海
 ありまんさく

通盛

付く時^二の物^一は^二ひ^一て^二人^一は^二所^一

し^二る^一と^二り^一と^二人^一と^二は^一夜^二の^一神^一

五^二つ^一と^二り^一海^一に^二入^一て^二ま^一

人も^二月^一に^二ま^一り^二地^一の^二底^一の^二み^一つ^二と^一

然^二る^一を^二り^一く^二け^一入^二り^一の^二世^一ひ^二お^一

し^二る^一も^二人^一の^二世^一ひ^二お^一

と^二清^一き^二ま^一り^二あ^一や^二る^一を^二も^一

今^二も^一の^二人^一は^二け^一け^二切^一り^二ま^一

い^二る^一ま^二り^一入^二ら^一る^二ま^一り^二ま^一

内^二の^一の^二ま^一り^二ま^一

も^二雅^一の^二法^一や^二あ^一や^二あ^一

と^二あ^一ま^二り^一ま^二り^一ま^二り^一ま^一

通盛

かゝる人々をば人々をば

名計のまじり清濁あはれ

乃あるもの沈みたる

乃高の塵土ありいそ今一人の田

とさるる人々をば

乃人々をば

乃森の食穀よある

わけ成るもの

乃三位通若し

よは直致とせむり作

の若しは前海

よある人々をば

三子約
去程。食致もあつた。成しつゝ

まれも得ぬ色もや付れぬとぞあ

早
後。御もすれも忠なる果のいん

正子
あつた。孫ちびる。おまうん

付れしつゝあつた。通盛もあつた。

おまうん。付た。あつた。おまうん。

おまうん。あつた。おまうん。あつた。

美園の作人。おまうん。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

栂垣

早向

見いひとれ圃いおやぐりよ
 居住り傍よてい板とけいいと
 の親を音のまといえん辨務の由
 りあれいおつくりく未終一
 而乃らちといとるるれ見南ある

海雲さんくさくさん
 りうちあり人まれゆく
 さと多くちかゆくさ
 ちるまよしほつさ
 ひく三年のるる居住
 愛ふ又白ふ色及らん

お女毎日あれあど
 いろふ色来りくひ

お女
 かけ白川のあつあつ
 後やぬらん
 雲とらんい

らうらう社ト女はあぐりか様の
るそとをが乃鹿とこのる
多れあらん結と帯ひあひ入的

^早あい又あり入一由勝りいん
背くい由乃名とあのみ入
何と名あふのれとも中早のり

毛いあひとよくぬゆあはとせん
集乃奇ト年しあれの然くあさ色
白川乃付あひとくひをむよるが
とよらうとあまの奇ありむ
幾あのみるあふよ唐よひのあ
つひく住し白梅子ほよあま

ト

。

早早くは白川にあり小住あり
 美早なるゆきありまま白の
 の窟り乃ありとあるの興のり
 通り一女時女あやあることせは
 ひ早一女宿早なるあはくま女ある
 早早く早一女宿早なるあはくま女ある

詩
 早早くは白川にあり小住あり
 美早なるゆきありまま白の
 の窟り乃ありとあるの興のり
 通り一女時女あやあることせは
 ひ早一女宿早なるあはくま女ある
 早早く早一女宿早なるあはくま女ある

後垣乃女かりおあしつれ哉よ

りどかうくろそやひとの東世

乃いさしそとさくあしそ

ゆけり上ふしむやましく

まきうく海旁あしくまらるが

け小唐りの灯乃がのたか

ふしむはく下きりし

ひちあわしあしれ帯ひや

上
月上くやあしむく多ん

あしむ上あしむよあしむく

あしむ上あしむよあしむく

あしむ上あしむよあしむく

今とありてはるらんよからぬ

^女はるれぬ極 ^地 至常乃まこと

^女 惟り生し乃理りとりんせらる

^日 阿と路らあひそやむがふ

つる分利あしかり紙のくこと

はる唯りあはるはるらん惟

るもよらんふしあ

花と実のあつる人ありあふ

いさよとあつるあなるは法

さひくあらん ^女 出くはつと

わつうてお借乃法とく

いあり人おあつるつと結ひ

早中ふ人は歌ひのあ
 けはまのやうくあつて
 女 涙よりなる色を
 えぬとともなう河のみ
 流るるむらさきと
 下 流るるの流る様や
 今と既

心乃あつてまんあ
 のあつてわくうひ
 然いあつてあつて
 せつとせつと
 てつとつとつとつと

とさぐけあどくびもあゆ
あぐ秋身もやくの傍もあ
えんたけ白程ハお傍のちく

ひんてづるあれを傍あか

一早上はらう周果のあどく

他らとあり様ごとくく

病ふ海女能一女能くくくくお傍

乃さあびうけあどく

や海くある置思ひ色海

あよ夜の枝乃ああのみ

かけ白河の月乃早庭

あを女い上まん早つるくあ

頼おらぐ名杖と月やよるん
 せんせいのあかきよか多の
 ありとく名わのりよい南殿乃志
 ともとく名それ水いあり出
 て水よりわおく名ま記のあ
 しの出くありより深しとん

う記の都あ名今乃くる
 去名せく名お名ま名いり名あ名あ
 乃多細井乃波よ名おとく
 つるん乃けあ名らりあ名う記い
 中名へ名お名細名くら名れ名去名乃あ名た名細
 えうの秋乃夕名れと一日の暮

しつゝうらるるさむかしの夜からくた神
とせしえんぬんとうつゝと陸奥
乃々ふの細糸しびあひたむいさ
白拍子そ面かけのあつゝさう
くそれとくさ首さあれ
舞あれたまもくも今のあふま

と上女興イのりあふりあはへいあ
さ海下あつゝあはれ神あうら
らひまひおと女上松垣の女あひの
果イとあひびとあつゝあひあつゝ
るのあはれりあ上池首大ようれ
あつゝ川のあま白川の浪白あは

下女

檜垣

十二終

多のあらじきさくしよまを
 らられし出さるありまふわ
 の秘とこしとふれう記号の
 ついさくひさくさくさくさく
 なるさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく
 さくさくさくさくさくさく

あま

田舎の殿

田舎

下ありぬと内家よ七月のらん
 のはたなよのりかきりあは
 ちあまのさくさくさくさく
 いちさくさくさくさくさく

田舎

まじりかきくひの者および

おろかきくひの者および

乃次おろかきくひの者および

さしおろかきくひの者および

見しおろかきくひの者および

とらおろかきくひの者および

是はおろかきくひの者および

くさおろかきくひの者および

楽人おろかきくひの者および

とらおろかきくひの者および

さしおろかきくひの者および

見しおろかきくひの者および

サレ

三

ふよから月の雨 多くと神の威を
のしるのさかきからしる 勢も雲
よきひくく *Shirayuki* とかきいひ
きつるも花はあれおろし 涙も
うららう 花あらしきもわらう
とねえはあらしきふりけ 帯れは
乃まがしで現より 女かたむか
くもはからく *Shirayuki*
つよもそ *Shirayuki* 女詞 桐も
め何 *Shirayuki* 女 花も *Shirayuki*
い *Shirayuki* 女 *Shirayuki*
十六 *Shirayuki* 女 *Shirayuki*

十六 *Shirayuki* 女 *Shirayuki*

あつたおのれをいふは

しるすはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

いふはまはるるは

ふ地と今更な律をぬるを恨つち

静^ヤがどくそ教る歎くと教なりを

きうあやふひあおせつり歎

りあそむらふ^ヒあふ^ヒおま^ヒけつり歎

くねおひのゆりふゆん^ヒあ

あふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒ

あふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒ

あふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒ

あふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒ

あふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒ

あふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒ

あふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒあふ^ヒ

あきけ 男れあきらむるものさき

や鳥ふと 眼の歌あきらむつ見

とあに 女のまへて 望上

きて秋の風あきらむるや

とせぬ報 望梅らぬあきらむる

上書 望梅らぬあきらむる

てふまゝあきらむるあきらむる

とこえなく 望梅らぬあきらむる

望梅らぬあきらむるあきらむる

かめといふ報のはくあきらむる

とくあきらむるあきらむる

とくあきらむるあきらむる

ヤ。花夜ふひもこしてもの人の様を

まを敷くやくがしら夢の如くはる

ひあかりはひなやありやウヌや女

人の面ふれ悩の雲晴て又あつ樂しお

ま女上候所乃を敷あやふび君乃は

余が女上樂さるるは地母やあはせ

方代たなともろくわんて今よ女上太平

樂しきま女上階を既ちさふまふか

世のしと徳やうくまのいあまき舞乃

身女上もや今夜あふ歌おしし

く候よあおすん我ふんるまひの櫻

ま女上富士う服よまへは海社うあうたれ

馬馬 是迄なりやんん かくいふ海海 ぞとてと
 とせいのいふ馬甲甲 みのぬを捨捨 する
 心心 亂亂 せはなすす ちかちか海海 なるなる 世世
 と又いゆりき報報 してさうさ人の私私 知知 なる
 已已 なるなる 人人 とさしてさか海海 のの なるなる あ
 とかしてさか海海 のの なるなる

小唄

曲出 抽子ん 佐中 立

第一 花花 ぶらりゆりゆりゆり のの 美美 くく 心心
 海海 なるなる 人人 半半 舟舟 かくかく 捨捨 けけ のの 者者
 下下 京京 なるなる 人人 とさしてさか海海 のの 心心
 くく のの 海海 ともとも 大大 京京 野野 乃乃 花花 今今 ぞ
 うう づづ りり のの 心心 なるなる 人人 とさしてさか海海 のの 心心

今更に花をばらばらとけり

おのづからいばりて

花をばらばらとけり

今更に花をばらばらとけり

花をばらばらとけり

今更に花をばらばらとけり

花をばらばらとけり

今更に花をばらばらとけり

花をばらばらとけり

今更に花をばらばらとけり

花をばらばらとけり

今更に花をばらばらとけり

一 五
 一 二
 一 三
 一 四
 一 五
 一 六
 一 七
 一 八
 一 九
 一 十

一 一
 一 二
 一 三
 一 四
 一 五
 一 六
 一 七
 一 八
 一 九
 一 十
 一 一
 一 二
 一 三
 一 四
 一 五
 一 六
 一 七
 一 八
 一 九
 一 十

小塩

甲角

二

身てしはうかたをたじけなげに
 ひきこる人いよかよはらひのり
 ことたぶひ花にかく社まゝ
 らあやみりてあうじ社にほつ
 しりあひまのまのまのまのま
 しるかちんくあまのまのまのま
 してかちんくあまのまのまのま
 甲辰九月二日

甲辰九月二日
 りあひまのまのまのま
 ちあひまのまのまのま
 りあひまのまのまのま
 盛らふまのまのまのま
 とまのまのまのまのま

笑はしむるまのまゝにあらざらん
 ほろもきこふまゝに
 中々今もあつちりゆふが光り
 かるくのほゝいりておそ
 わ〜〜いやくゝあはれいふの
 けり

衆代トニニの事なるかん一とありが
 つま〜我なる〜おそ
 やあめほられ衆代のほり人
 身のいせ乃道六渡らぬ
 とおろもあづくのほりて

鹽

七

まへに
さくがも 結海ひささき
ゆるる色乃 舞を 花もや 春を 忍んぬ
あは びり 夕 霞 けり づか の おもひ を
あらと かん えつ 失に なく 少
まや 今 の もの ぎ ぎ かな げん げん

くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん
くらくろ げん 舞 車 の 花 よ 舞 げん

七

我身ぞりしれがとあしじい
もあみ今まへにまらぬ花を車
の座したまひのほろほろをいふ
ふん 三十一 花をいふまれと
花のあはれ 三十一 一練代の流れ
あわ 三十一 上 三十一 ああ 三十一

いもや地まのふん 三十一 朽といで
花 三十一 人 三十一 花 三十一 花 三十一
今 三十一 今 三十一 花 三十一 花 三十一
い 三十一 今 三十一 花 三十一 花 三十一
白 三十一 今 三十一 花 三十一 花 三十一

益

九

花人車くるり月乃花よ坊よ
^{クモ}そしちめんせうあわさし金
花よはいちやう月よむむがし
^{コト}海さうせい河がら
ぐいせいやなわむ我よひ
^{コト}いんせういんせういんせう

くのえいよのほらあひうらら
^{コト}あいののぬまあひよせむら
^{コト}やま月錦うらむじらなれ
^{コト}と後ちのみさむらあむ
^{コト}しあせいひみらのれあ
^{コト}らむら浪の今むいんあ入
^{コト}あ

